

Feeling excited

“Dance with Heart”
We are burning with enthusiasm
in creating national art for the new era.

The Kikunokai Dance Troupe
Chairperson : Satoshi Hata

日本のおどり

発行：舞踊集団 菊の会
〒161-0031
東京都新宿区西落合 2-21-23
03-5983-6001 (代表)

菊の会 京都八瀬研修所
〒601-1254
京都市左京区八瀬野瀬町 10
075-712-8701 (代表)

<http://www.kikunokai.co.jp>

Dancing from the heart



Nagauta "Kotobuki-kiku-sanbasou"



ご挨拶

舞踊集団 菊の会

代表 畑

聡

菊の会は今春、お蔭様をもちまして創立三十九周年目を迎えることができました。これまでの長きにわたる御支援に厚く御礼申し上げます。

昨年畑道代前代表を失って以来九カ月、会としての歩みを止めることなく公演を続けることができましたのも、多くの皆様からのお励ましや御厚情の賜物です。あらためまして感謝の念を深くしております。

また、その九カ月の間には東日本大震災という未曾有の天変もございました。震災で亡くなられた方々の御冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された多くの皆様へ衷心よりお見舞い申し上げます。

地震当日、私達は秋田県由利本荘市の小学校で文化庁事業の学校公演を行ってまいりました。その公演中に地震に遭い、突然照明も音も消え、止むなくいったん公演を中断しました。しかし卒業を控えた六年生には最後の思い出の行事でもあり、また一カ月前にワークショップで練習した「阿波踊り」を披露することを生徒さんたちは楽しみにしておりました。その願いをかなえるべく舞台を再開。会場の体育館は停電のためにはの暗くなっていました。降りしきる季節はずれの大雪の雪明りに照らされ、生徒さんたちの笑顔は輝くばかりで、思い出深い公演となりました。今回の天災により混迷を深める社会情勢の中にあつて、この公演のように私達にできることを模索し、少しでも社会貢献してゆくことは新生菊の会の現下の使命の一つと考えております。

創立者畑道代が掲げそして生涯貫いた舞台活動とは、大衆の中に生きる踊りを多くのかたに共感していただくことであり、心に希望と明るい活力とが溢れることです。このような舞台活動を通じて、少しでも社会に役立つ舞台芸術の創造を目指し、菊の会の一人一人がその理想を胸に、いっそうの強い決意で臨んでまいりたいと思っております。

何卒、今後とも変わらぬ御支援をよろしくお願い申し上げます。

「菊の会」の皆様 心から感謝申し上げます。

【特別寄稿】



在クウェート日本国大使館
特命全権大使

小溝泰義



アハマド・アブダッラー石油大臣と
小溝大使ご夫妻

日本クウェート国交樹立五十周年の佳節に「菊の会」の皆様がクウェートに来ていただき、さすがに静謐、ある時は躍動する日本の心の諸相と現在に融合した伝統舞踊の多様な美の姿をクウェートの人々に見せていただきました。皆の心が喜びに湧き上がるような大成功の公演でした。心から感謝します。当国では異例ですが、首長家

(王族)のアハマド・アブダッラー石油大臣兼情報大臣も初日公演の最初から最後まで臨席し、公演を心から堪能されていました。最前列で拍手し、コミカルな「釣女」では、何度も爆笑し、「次はこうなるぞ」と展開を予想したりしながら鑑賞。また、第二部の展開の早い様々の舞踊も、一つ一つ舞台に食い入るように鑑賞されていました。来賓、一般客共に、日本の美と心に、強



公演終了後小溝泰義大使ご夫妻と共に

い印象を受けた公演でした。公演最後に出演者の皆様、阿波踊りで客席を回って下さった時には、私自身、心からの感謝の念で自然に踊りの輪に参加していました。最近、日本からの要人と会談した際にも、石油大臣は、修好五十周年記念の「菊の会」公演では小溝大使が最後に踊り出し、自分も危うく一緒に踊るところだったと懐かしそうに語っておられました。また、二日目の一般公開の公演も、観客が階段通路にまであふれ出す大盛況で、熱狂的な反応の公演でした。家内は、私たちが日本とクウェートの友好のために必死で努力しているところに、「菊の会」の方々が、美しい心と磨かれた芸術をもって応援に来てくださった、涙が出て仕方がなかったと感動していました。わたしも同じ心です。

今回の公演は、昨年、「菊の会」創始者の畑道代さんがご逝去された後、後継の皆様が、新体制で初めて引き受けられた海外公演だったと伺いました。実は、私が外務省に入り立ての頃、畑道代さんが、ある場所で流派の違う舞踊家の方とお二人で舞われたお姿を拝見した記憶があります。いわゆる四畳半のイメージの日本舞踊とは全く違う爽やかで鮮烈な舞に強い印象を受けました。当時、日本文化の海外への紹介方法を模索していたこともあり、未だに鮮烈に記憶に焼き付いています。畑道代さんの開拓された、高い芸術性と庶民性を兼ね備えた、時代に息づく舞踊芸術の広々とした道を、新生「菊の会」の皆様が美しく誇り高く更に更に切り開いて行かれますことを心からお祈り申し上げます。本当にありがとうございます。

演に続く が盛大に開催!



畑道代先生を偲んで



トルコ・イスタンブール在住
牧志勝巳

私はトルコ・イスタンブールに在住し旅行関係の仕事をしております。こちらで暮らすようになってから今年で十七年目になります。私が「菊の会」の海外公演の現地コーディネーターのお仕事をさせていただくようになったのは、二〇〇四年のトルコ公演がきっかけでした。

二〇〇四年の夏、トルコ公演の下見でお弟子さんと技術スタッフの方々と当地を訪問された畑道代先生と初めてお会いしました。十一月の公演の準備が思うように進まず困惑されているということで、現地のコーディネートを依頼されました。



「オマーン公演」に於いて

全部やらなくてはならず、今までの公演では経験したことのない大変な状況でしたが、畑先生をはじめ、菊の会の公演メンバーの情熱にも伝播し、大成功の公演にすることができました。現地スタッフもこんなにすばらしい芸術家グループは初めてだと感動しております。陰の人を大切にすることを、菊の会の心が文化や言葉の壁をこえて一緒に公演を成功させようという団結を創り出したのだと思います。

この公演がきっかけで、翌年のドイツ・チェコ公演の現地コーディネーターをやらせていただくことにな

遺された言葉に 託された夢

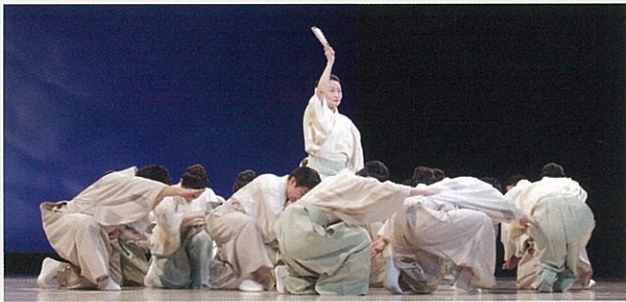


(社)日本演劇協会
常任理事
嶋田 親一

その日、畑道代先生は、熱い想いを、なんと二時間近く語られたのです。車椅子に腰かけられ、長い管、白いマスク、でも先生は踊りへの情熱を凜とした口調で私にぶつけられました。感動しました。激しく心をゆさぶられました。

昨年（平成二十二年）一月三十日、私は劇作家、柏戸比呂子さんを紹介するため、先生のお時間をいただいたのです。

大分前に、お元気だった頃の畑先生と語ったことがあります。「日本のおどり」に対する大きな夢、創作舞踊に立ち向かう強い姿勢、その時再会を約し、それが実現した時は、すでに病と闘



長唄「流れ」

つておられました。柏戸比呂子さんは昔からの私の仲間です。畑先生と彼女は、女性同士で話も弾みました。畑先生の、これからの創作へのお考えをじっくり伺う第一回目のスタートでした。やがて畑先生は一冊の台本を渡されました。それは昭和二十八年の「魯山人美味論語」にある狂言『食道楽』という作品。

「この狂言に興味をもっていて」と畑先生は微笑しました。登場人物は、大名、目、鼻、口、手、心、耳というのですから驚きです。畑先生の脳裏には、SF

の世界も飛び交っていたかもしれません。病と向き合い死と対峙していた先生自身のテーマが「肉体」「命」にあったのでしようか？この『食道楽』の台本が遺された宿題のヒントになりました。

八月二十九日、計報に接し絶句しました。東日本大震災により日本も困難にぶち当たりました。人間と自然。

畑先生ならどう考えられたでしょう。今こそ、その先生の志を噛みしめたい。そしてその志が畑聡新代表のもと、「菊の会」のみなさまに継がれていると信じています。



トルコ・オマーン公 クウェート公演



「チュニジア公演」に於いて

畑先生の穏やかな温かい笑顔の中にも、何としても十一月の公演を成功させるという情熱というか、気迫のようなものを感じました。舞台、照明、音響などのスタッフの方々をはじめ、現地の会場関係者から運転手にいたるまで、公演を陰で支えてくれる全ての人に気を配る振る舞いに心から感動したことが忘れられません。

この畑先生のお心にふれて、私も何としてもトルコ公演成功のために全力でがんばろうという情熱が湧いてきました。イスタンブールの会場であったアタチュルク文化センターでの公演は会場の都合で、仕込み、リハーサル、公演を一日で



トルコのエフェスの遺跡にて



左より牧志勝巳さん畑道代前代表事務局長の久欠美子さん

り 下見の時から畑先生一行と同行させていただきました。ドイツからチエコへの移動の列車の中では、私の個人的な悩みにまで耳を傾けてくださり、激励をさせていただいたのが深く心に残っています。

この海外公演を最後に、体調をくずされて、畑先生自ら海外に出られることはなくなりましたが、愛弟子さんたちと一緒に、北アフリカ公演、ブラジル公演などに行かせていただき、文化で世界を結ぶ、菊の会の活動に陰ながら参加することができ本当に光栄です。これからも、畑先生の思いを受け継いだ菊の会のメンバーの海外公演を全力で応援させていただきたいと思っております。

北海道・東北学校公演ツアー

二〇一〇年度文化庁「子供のための優れた舞台芸術体験事業」に採択され昨年十月には宮城県南気仙沼小学校・貞山小学校・村田第二中学校・青森県三戸小学校・北海道真駒内緑小学校・上野幌小学校・北翔養護学校・帯広第五中学校・陸別中学校として本年三月の追加公演では青森県三戸中学校・秋田県上川大内小学校を巡回公演しました。

(三戸町・陸別町では夜に町主催として菊の会公演を開催して下さり大好評を頂きました。御尽力下さった多くの皆様により感謝申し上げます。)

いずれも一ヶ月前に少人数でワークショップを行い菊の会の活動紹介や、フィナーレと一緒に踊る阿波踊りの練習が行われました。



生徒の皆さんから届いたイラストです

「私は生まれて初めて踊ったというものを観ました。舞踊集団菊の会の人達の公演を見てとても迫力満点でした。最初の獅子舞では、いきなり獅子舞が入って来てビックリしました。ひよっとこと獅子は色んな動きをして皆を楽しませてくれました。私が見た中で一番鬼剣舞が力強く綺麗でした。さいしよは二人だけ入って来てもつと力強く見えました。最後に見たのは阿波踊りです。代表



秋田県上川大内小学校の生徒の皆さんと共に(ワークショップより)

本公演では、スタッフ、キャスト合わせて三十名が体育館狭しと熱演しました。最後の阿波踊りでは生徒の皆さんが一生懸命見事に踊りきり、次代を担う子供達にも日本文化を大切に思う心が大きく芽生えたと思われました。終演後に送られた感想文の一部を紹介致します。

『迫力満点の舞踊公演』
小学校五年生女子

の人たち(生徒)が躍ったのは息があつて綺麗でした。菊の会の人達は動きが柔らかくて綺麗だったし男の人達は大きくジャンプをして凄かったです。衣裳もきれいだっし髪を結うのも大変そうでした。でも、とてもきれいでビックリしました。今回は地震で見られなかった踊りもあつたけれど、色々な事学ぶ事が出来てよかったです。家の人も喜んでいたので機会があれば又見たいと思いました。最初は日本舞踊と聞いて難しそうないメージがあつたけど、今回見てみて明るく楽しく踊っていて面白かったです。このような体験が出来てよかったです。このほか沢山の感想文が送られてきました。改めて菊の会の活動のもつ意義深さを実感しています。

感動の秋田学校公演



阿波おどりを元気一杯披露する子供たち

感動の秋田学校公演
東日本大震災当日、無事に公演が終了!

Information 菊の会公演予定

【日本のおどり～初夏に舞う～】

6月11日(土) 千葉市文化センターアートホール (千葉県)
時間/14:30・18:30 開演 (2回公演)
前売料金/自由席 5,000円 (一部指定席 6,000円)

6月17日(金) 越谷サンシティホール (小ホール) (埼玉県)
時間/14:30・18:30 開演 (2回公演)
前売料金/自由席 5,000円 (一部指定席 6,000円)

6月25日(土) 流山市生涯学習センター (千葉県)
時間/14:00・18:00 開演 (2回公演)
前売料金/自由席 4,200円 (全席自由)

【菊の会教室発表会】

7月24日(日)・7月31日(日) 板橋区立文化会館
時間/両日共 14:00 開演
入場無料 (但し、招待チケットをご持参下さいませ)

【菊の会 日本を躍る・鎌田英一 日本を謳う】

9月11日(日) 所沢市民文化センターミュージス (埼玉県)
時間/15:00 開演
前売料金/自由席 5,000円 (一部指定席 6,000円)

【畑道代 追善公演 菊の会 日本心を躍る】

10月4日(火) 浅草公会堂 (東京都台東区)
時間/15:00 開演
前売料金/自由席 5,000円 (一部指定席 7,000円)

【菊の会公演 舞踊劇 カッチャ行かねかこの道を】

11月16日(水) タワーホール船堀 (東京都江戸川区)
20日(日) 鹿嶋勤労文化会館 (茨城県)
27日(日) 横浜関内ホール (神奈川県)
29日(火) キラリ☆ふじみ (埼玉県)

【民音主催 舞踊集団 菊の会 山梨公演】

12月4日(日) コラニー文化ホール大ホール (山梨県立県民文化ホール)
時間/15:00 開演、前売料金/未定

※上記の日程は予定ですのでご確認の上御来場下さい。
お問い合わせ: 菊の会事務局 03-5983-6001

COFFEE BREAK

一瞬を永遠に

天舞グループ4期生
中山 順子



畑前代表と京都八瀬研修所に於いて

生活の中の一瞬の出会いや、そして舞台に限らず、日々の

車椅子で七時間に及ぶお稽古をつけてくださいました。私は十二年前に、命に及ぶ大病を患いました。今まで元気に動いていた体がいうこときかず、時が経つにつれ焦りと苛立ちが募っていききました。畑先生は「焦らずにね」と温かく長い目で見守り続けて下さいました。徐々に体力を取り戻しお稽古に通い、五年後には公演メンバーに復帰する事が出来ました。病気を通して、ほんの些細なことでも喜びを感じられたり、今まで見慣れたものが色鮮やかに見えたりと、長かったその五年に、私なりの素晴らしい時を経験してきたと思えます。

舞台は一つとして同じものも無い、一瞬一瞬が素晴らしいものになるようお稽古に励むことを畑先生は常に教えて下さいました。

出来事をとても大切にされていらつしやいました。昨年亡くなるまでの一年一ヶ月、内弟子につかせて頂き沢山のことを学ばせて頂きました。いま日々の一瞬一瞬の「時」を大事にする事で、未来が大きく広がっていくように感じています。

踊りでも、普段の行動でもその一瞬一瞬が畑先生の思いにつながるように、全ての時を大切にしたい、永遠に菊の会が続いていくように願っています。

6歳より畑道代前代表に師事
2003年 舞踊劇『阿国かぶき』出演
2009年より畑道代前代表の内弟子
2011年 クエスト公演に参加

